

H24-D1-3 深度52.13~52.28m 全景写真の記載 (No.106) の修正、複合面構造の解釈線 (No.107) の修正

従前

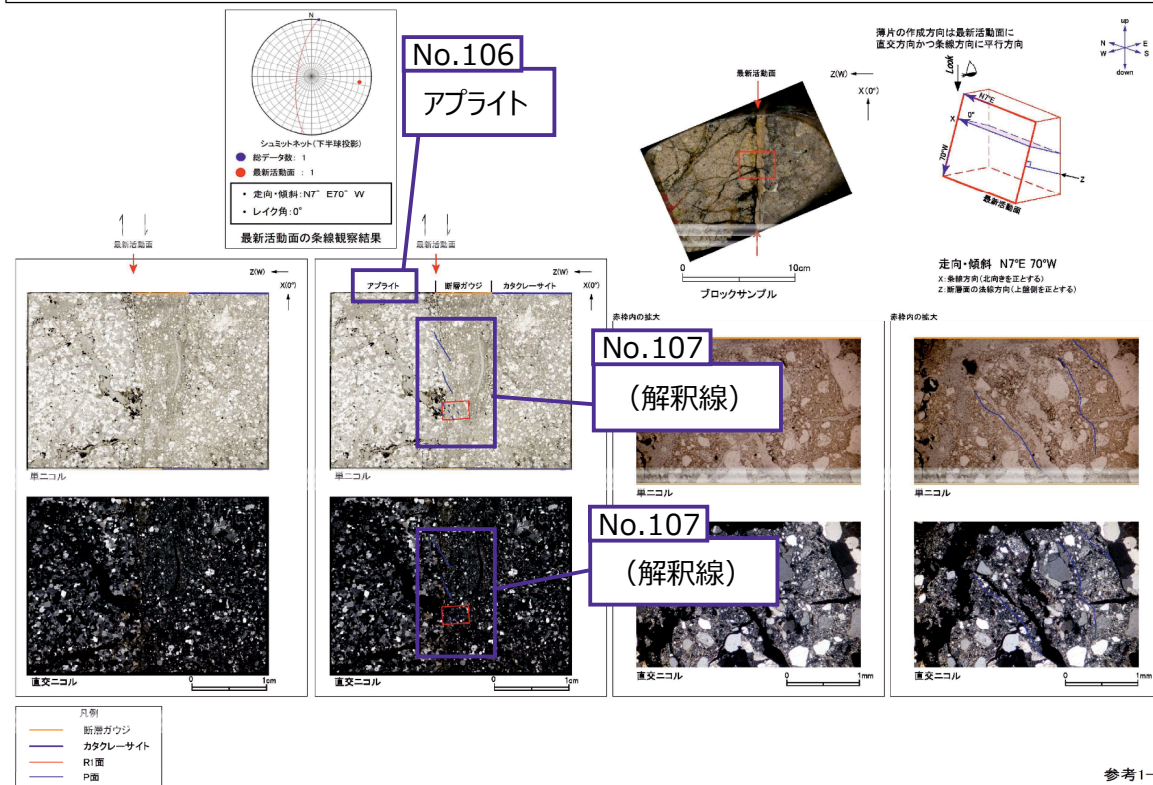
見直し後

第833回審査会合  
机上配布資料1  
敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について  
参考資料1 薄片観察結果  
参考1-224頁

第833回審査会合 机上配布資料1に追記(青太枠)

非モデル化破碎部 薄片試料観察(H24-D1-3 深度52.13m)

H24-D1-3のボーリングコア(深度52.13m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、右ずれ成分が卓越する。

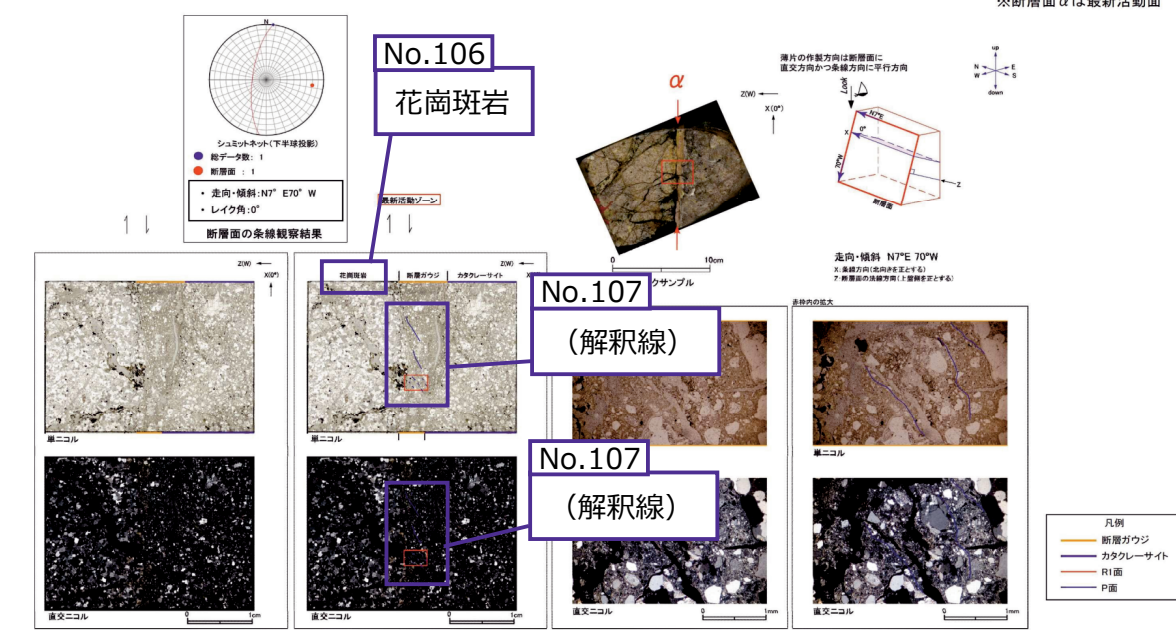


参考1-224

・H24-D1-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれ成分が卓越する。  
・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。  
・(断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。  
・(断層ガウジ)粘土状部の分布は帯状で直線的である。  
・岩片は少ない。  
・(カタクレーサイト)角ばった岩片が多い。

※断面αは最新活動面

6-7-1146



第7.4.4.322図(3) 破碎部性状 H24-D1-3 深度52.13~52.28m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/2))

**1. 変更内容、理由及び断層連続性評価への影響**

・最新活動面の深度を修正 (No.108)

・性状一覧表において、断層ガウジの幅を0.2cmに見直し (No.109)

【理由】No.108で認定した深度26.71mの断層ガウジと、深度26.70mの断層ガウジの幅を合計した結果、従前の「0.1cm」を「0.2cm」に変更した

・薄片観察結果において、全景写真の記載を花崗斑岩に見直し (No.110)

【断層連続性評価への影響】なし

**2. 変更箇所**

a 最新活動面の深度を「26.71m」に修正 (No.108)

b 断層ガウジの幅を「0.2cm」に変更 (No.109)

c 全景写真の記載を「花崗斑岩」に修正 (No.110)

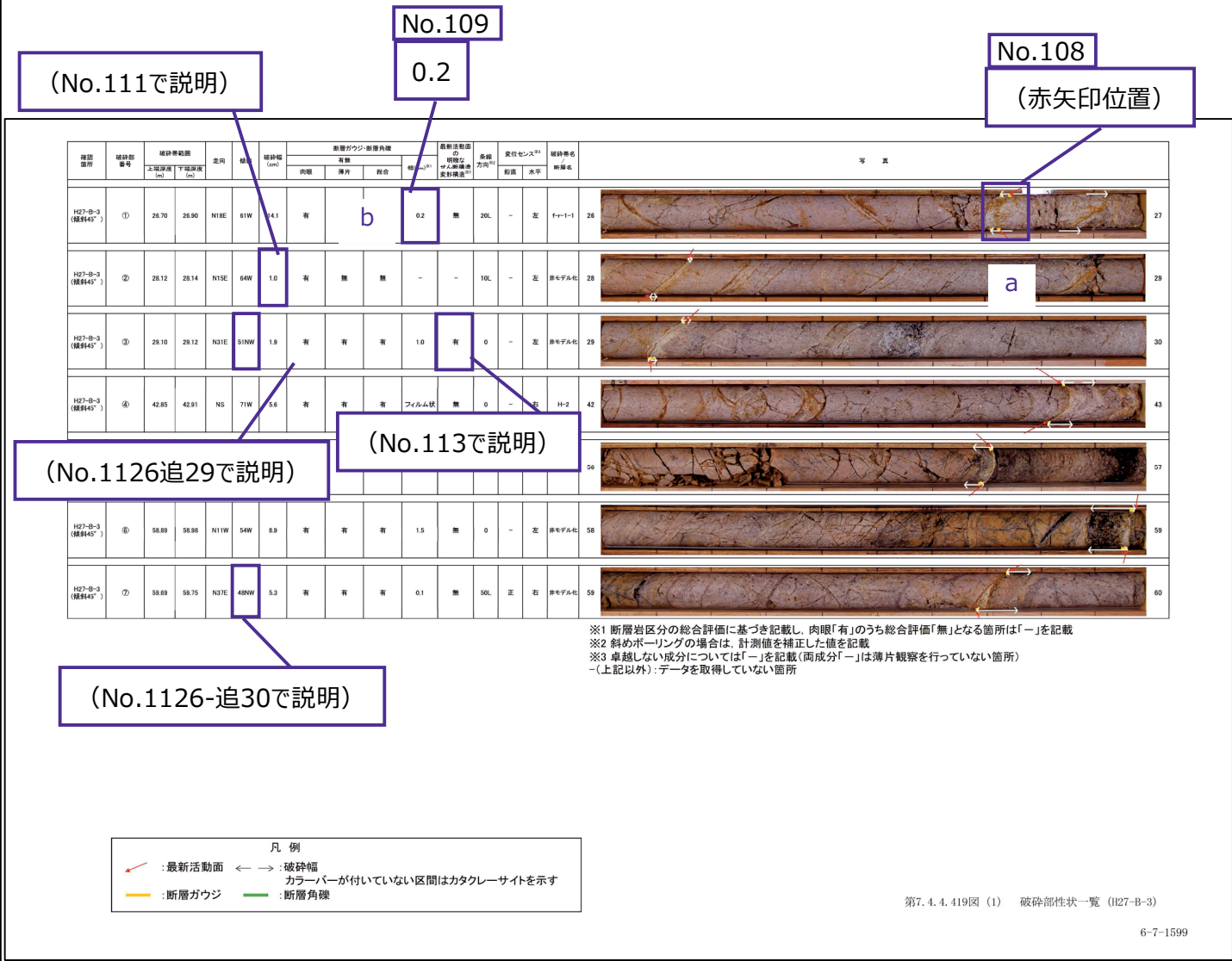
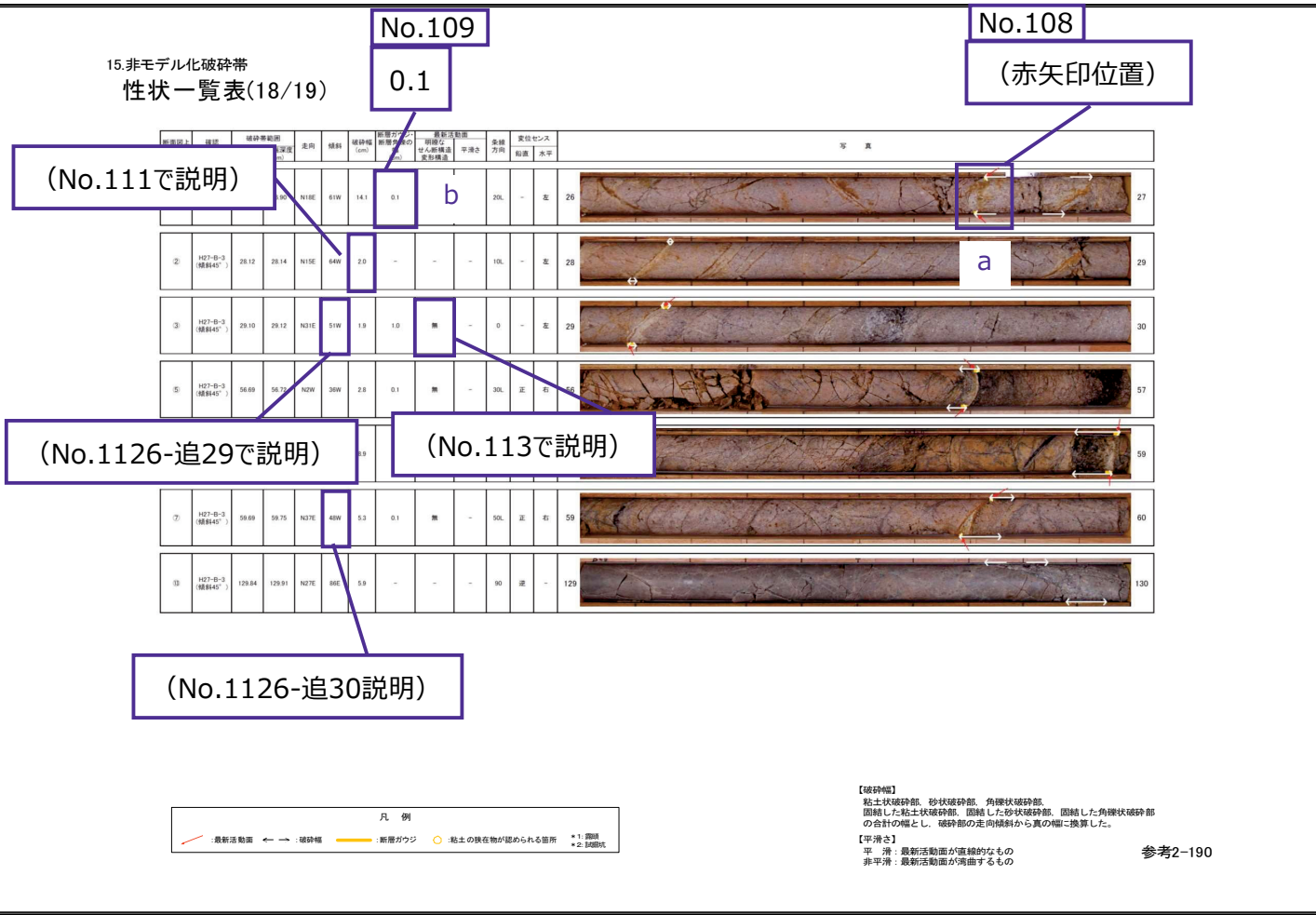
H27-B-3 深度26.70~26.90m 最新活動面を示す矢印の位置 (No.108) を修正, 断層ガウジの幅を変更 (No.109)

従前

見直し後

第833回審査会合  
机上配布資料2  
敦賀発電所2号炉 敷地の地形, 地質・地質構造について  
参考資料2 性状一覧表  
参考2-190頁

第833回審査会合 机上配布資料2に追記(青太枠)



H27-B-3 深度26.70~26.90m 最新活動面の深度 (No.108) を修正、全景写真の記載を修正(No.110)

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料 1

敦賀発電所 2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

参考資料 1 薄片観察結果

参考1-242頁

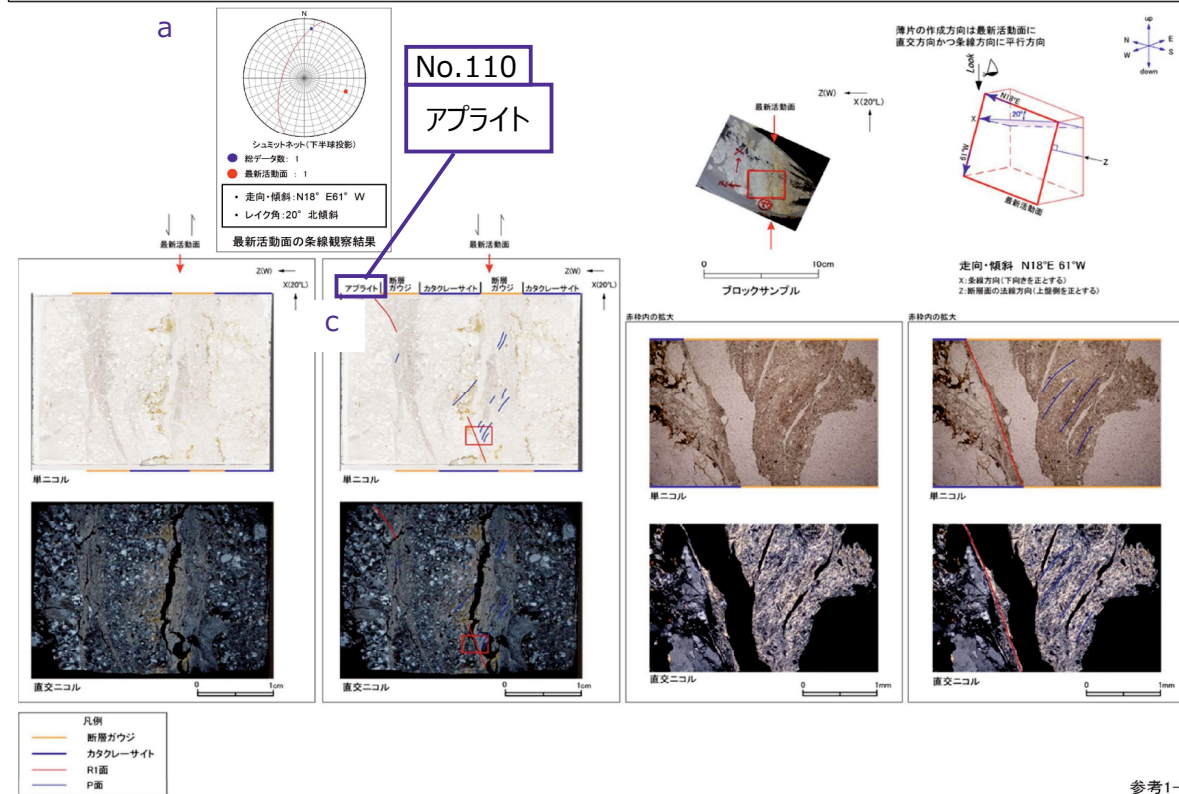
第833回審査会合 机上配布資料1に追記(青太枠)

No.108

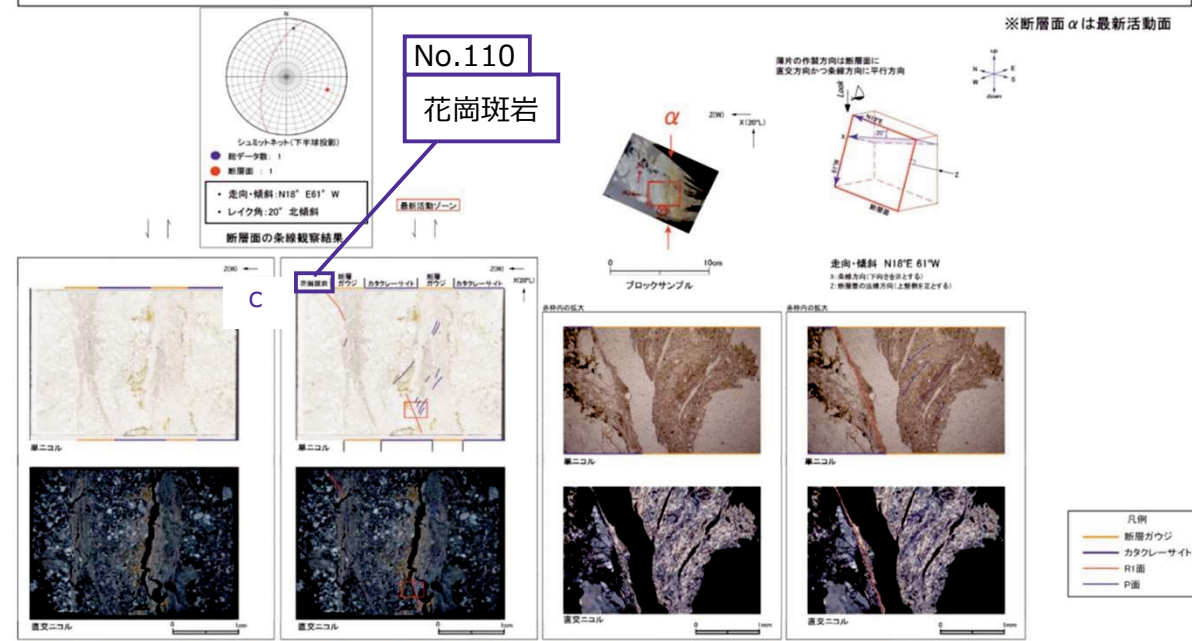
(フォーム見直しにより数値の記載なし)

非モデル化破碎部 薄片試料観察 (H27-B-3 深度26.70m)

H27-B-3のボーリングコア 深度26.70m から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、左ずれ成分が卓越する。



H27-B-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、左ずれ成分が卓越する。  
 ・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。  
 ・(断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。  
 ・(断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的である。  
 ・岩片は少ない。  
 ・(断層ガウジ) 丸みを帯びている岩片が多い。  
 ・(カタクレーサイト) 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。



第7.4.4.324図 (3) 破碎部性状 H27-B-3 深度26.70~26.90m (変位センス、薄片観察による断層岩区分(1/3))

H27-B-3 深度26.70~26.90m 断層ガウジの幅 (No.109) を変更

- 従前提示していたデータでは、性状一覧表に断層ガウジの幅を0.1cmと記載していたが、以下のことから、0.2cmが正しい値であるため、0.1cmから0.2cmに変更した。
- コアの再観察の結果、断層ガウジは深度26.70mと深度26.71mにそれぞれ0.1cmずつ分布すると評価し、断層ガウジの幅は合計0.2cmであった。
- 従前提示していたデータでは、当時の作業において、No.108に記載している最新活動面の見直し結果が反映できていなかったことから、断層ガウジを深度26.70mのみと誤認し0.1cmと記載したと推定される。

断層ガウジ・断層角礫の幅算出資料 (H27-B-3 深度26.70~26.90m)

・実測した断層ガウジの幅の合計は0.2cmである。

コア写真

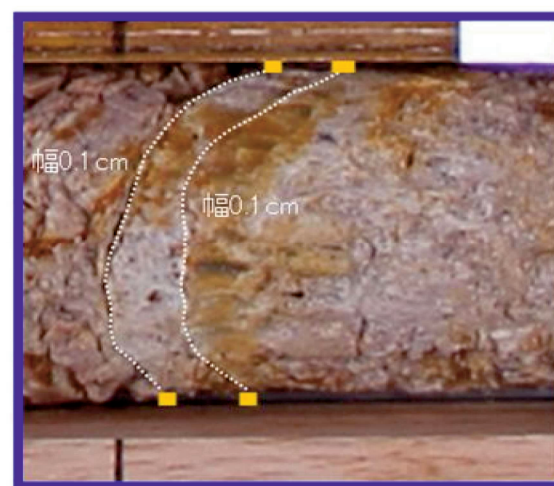


凡例



青枠部拡大

0 5 cm



青枠部拡大

0 5 cm

変更前の幅の記載

該当箇所のコア観察カード

● 26.70~26.90m : 破碎帯 (主に断層26.70m)  
 ・26.70m : Hc-1  
 43°上・下端部に連続的に連続。石英粒、新と古いの軟質粘土(5%)。色調は淡黄(2.5YR9/3)。厚2.1mm以下  
 ・26.70~26.90m : Hb  
 上端43°上・下端部に連続的に連続。石英粒、新と古いの軟質粘土(5%)。色調は淡黄(2.5YR9/3)。厚2.1mm以下  
 上端43°上・下端部に連続的に連続。石英粒、新と古いの軟質粘土(5%)。色調は淡黄(2.5YR9/3)。厚2.1mm以下

**1. 変更内容、理由及び断層連続性評価への影響**

・性状一覧表において、破碎幅を1.0cmに見直し (No.111)

【理由】作業時に正しい情報が反映されていなかったため

・薄片観察結果において、全景写真の記載を花崗斑岩に見直し (No.112)

【断層連続性評価への影響】なし

**2. 変更箇所**

a 破碎幅を「1.0cm」に変更 (No.111)

b 全景写真の記載を「花崗斑岩」に修正 (No.112)

